



平成 25 年 2 月 14 日

積雪期における震災対応防災訓練を実施

新庄河川事務所（河川・砂防出張所を含む）では、積雪期に発生した東日本大震災を教訓に、昨年度に引き続き積雪の一番多いこの時期に防災訓練を実施しました。

昨年の課題をもとに、点検ルートおよび点検手段の改善を図りながら、CCTVカメラ（遠隔操作が可能な監視装置）を利用した実践的な訓練や、積雪期の堤防・橋梁・樋管等の被災状況把握および情報伝達訓練を実施しました。

訓練では、スノーモービルやスキー、かんじきを利用して、2mにせまる積雪状況の堤防を確かかつ迅速に確認していくための検討を行いました。



平成 25 年 3 月 8 日

河川3出張所合同安全パトロールを実施

新庄河川事務所の河川を管理している3出張所（大石田・鳥越・鮭川）が合同で安全パトロールを実施しました。最上川の2箇所の現場をまわり、安全管理について工夫しているところや改善すべきところについて意見を出し合いました。改善すべき事項や指摘事項については速やかに対応し、各出張所の請負現場においても安全管理について啓発を促し、全ての現場において「事故ゼロ」を目指します。



▲「最上川中流亀井田橋下部工工事（大石田管内）」現場

亀井田橋下部工工事の工期1ヶ月延長（4月末まで）

亀井田橋下部工工事について、平成25年3月29日までを工期として工事を行ってきましたが、工事箇所は地盤が固いことから、矢板打ち込みには予定以上の時間を要しました。工事の遅れを取り戻すために人員を増やして対応して来ましたが、豪雪（大石田町では観測史上最高積雪を記録）によりさらに作業が遅れたことから、工期を延長して工事を実施することとなりました。

地域の皆様には、引き続きご迷惑をお掛けいたしますが、何卒、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

【 工期延長 】 平成25年3月29日 → 平成25年4月30日まで



▲ 大雪の中での「コンクリート打設」作業状況



▲ 固い地盤への「矢板打ち込み」作業状況

平成25年2月28日

平成24年度 水閘門操作員講習会を実施

大石田町福祉会館で、毎年1回開催している「水閘門操作員講習会」がおこなわれ、大石田出張所管内の全26樋管から46名の操作員が出席しました。

講習会では、各操作員の樋管操作をより確実なものとするため、樋管の操作や整備、就業規則などについて再度確認し、携帯電話を使用した樋管情報管理システムの入力訓練も行いました。

また、操作施設に関する不具合や要望などについて意見交換がおこなわれ、現場からの貴重なご意見をいただきました。

参加された操作員の方々は一日を通して真剣に聞き入っていました。操作員の皆様大変お疲れ様でした。

平成24年度 水閘門操作講習会

10:30～15:30

退職者及び新規委嘱操作員紹介
建設事業関係功労者 受彰者紹介
講習内容

- ・平成23・24年度の出水状況、出水傾向
 - ・河川管理(河川巡視、出水時の取り組みなど)
 - ・緊急時の操作員の避難退避水位・退避ルート
 - ・操作員の就業規則と業務
 - ・排水樋管の点検方法と点検ポイント
 - ・出張所からの話題提供
(岩ヶ袋消流雪施設完成、亀井田橋架替工事など)
 - ・樋管情報管理システム演習(携帯電話を使用)
- 意見交換会



▲ 携帯電話を使った樋管情報管理システム入力訓練



▲ 排水樋管操作状況

掲 示 板 大石田管内「河川愛護モニター」さんより

戸田 志津子 さん(尾花沢市)

今年は記録的な豪雪で、これでもかこれでもかという位降るので、びっくりし通しの冬でした。

以前、丹生川大橋を通ったとき排雪された雪が積まれているのを見て、びっくりしたことがありました。今年は、雪が積もる前と後で景色がどのように変わるのかと思い、写真を撮ってみました。

同じ川でも、夏になれば魚取りや川遊びに冬になれば雪捨て場と多様な利用のされ方をしているのだな、と思いました。

丹生川河川敷(積雪前)

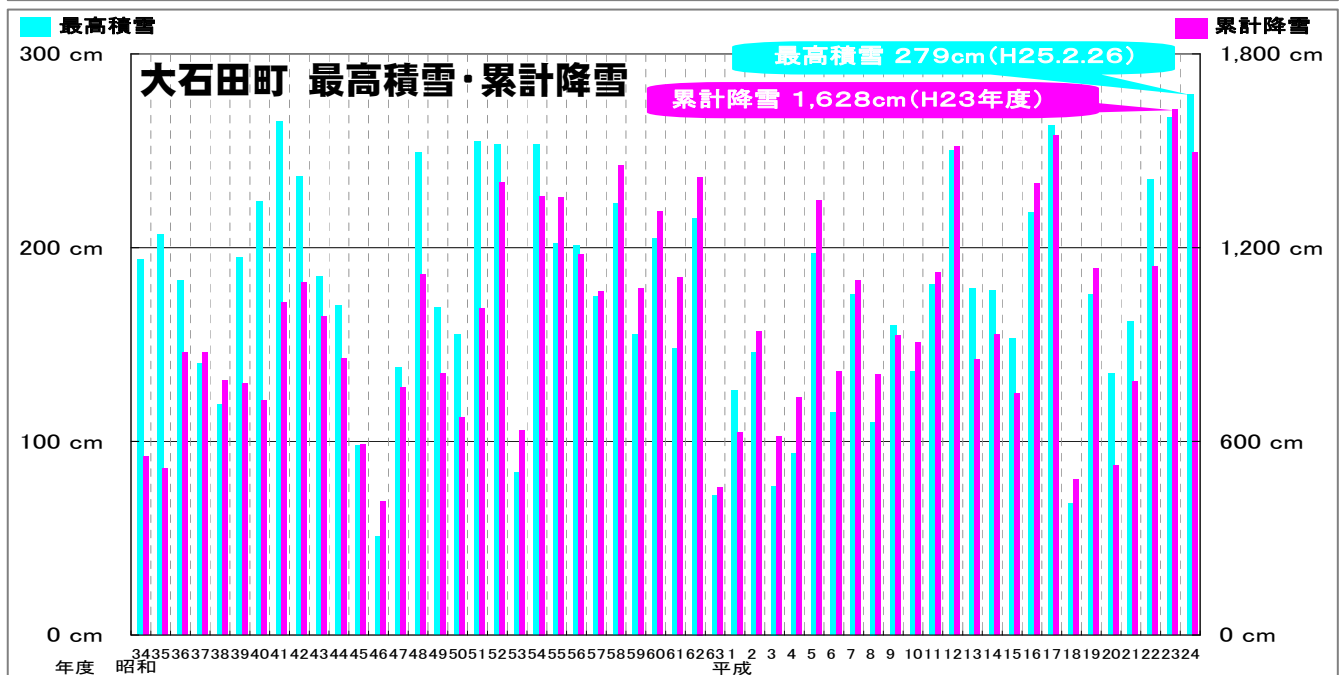
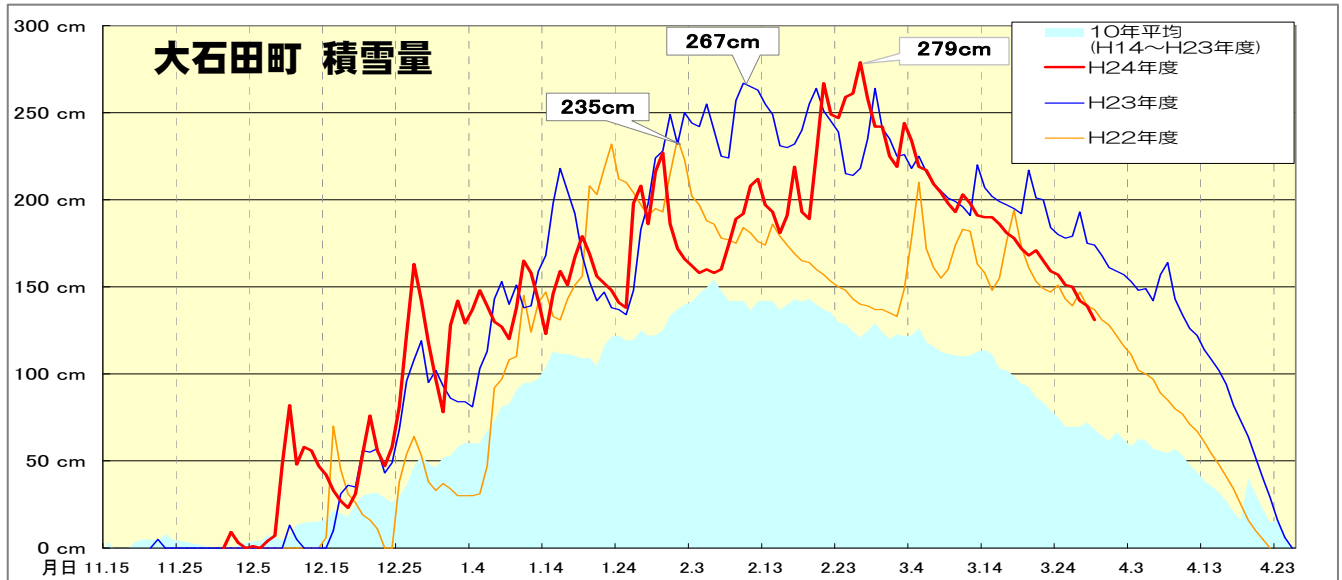


丹生川河川敷(排雪状況)



平成 25 年 2 月 26 日
今年度も積雪量が観測史上最高 279 cm を記録

【豪雪対策】 ① 消流雪ポンプの稼働時間の延長 ② 雪捨て場の使用期間延長 (3 / 31 まで → 4 / 30 まで)



出張所長退官にあたって



新庄河川事務所 大石田出張所長
阿部 晴夫

(平成25年3月31日付 退官)

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の約3ヶ月後、宮城県の飯野川から大石田へ着任して早いもので1年9ヶ月が過ぎました。昭和46年4月に新庄に採用されて以降、東北の河川管理、ダム管理、砂防・地すべり工事に携わってきました。

入省当時、「国家公務員は、国民全体の奉仕者である。国民の生命と財産を守るため全力で業務を遂行すること。」を研修等で教育されましたが、実感としてなかなか捉えることができませんでした。

26歳の時、昭和53年6月12日に発生した宮城県沖地震による堤防の甚大な被害対応を契機にその意味がわかり始めました。堤防の被害調査を北上川の全職員（百数十名）によるローラー作戦で休日返上し各班、1日10kmを調査したことをいまでもはっきりと覚えています。職員の中には、高齢の方、持病を持った方もおりましたが、一人一人使命感を持ってお互い助け合い、また励まし合いながら地域の皆様の生命財産を守るため、職員一丸となって奮闘している姿が未だに忘れられません。

その後、34歳の時、平成6年8月洪水による宮城県の吉田川堤防4箇所破堤と緊急復旧対応、56歳の時、平成20年6月の岩手・宮城内陸地震



▲出張所主催「水防技術講習会」にてロープ結び指導



▲「最上川200キロを歩く」にて現地説明

による石淵ダムの被害対応、そして、58歳の時、2年前の東日本大震災による北上川河口部での津波被害緊急復旧対応に遭遇して、危機管理の重要性と国土交通省の現場力（全国からの支援体制）、地元の建設業者の方々の地域を守る使命感と機動力のすごさをあらためて認識しました。

大石田は、約2年間の短い在任期間でしたが、①市・町との月1回の情報交換会の実施②重要水防合同巡視③水防活動調整会議（国、県、町）④水防技術を継承するための「国、市、町職員による水防技術講習会の実施⑤中学生の職場体験学習の実施⑥「最上川200キロを歩く」スタッフとして参加、などに取り組みました。

また、大石田町、尾花沢市の関係者の皆様、区長さんを始め地元の皆様のご理解とご協力により、昨年度、大石田管内の堤防を完成させることができました。

そして、今年度は岩ヶ袋・海谷地区の消流雪施設事業の完成にも立ち会うことができました。今年は、昨年につづく豪雪でしたので、完成した消流雪施設が岩ヶ袋・海谷地区の皆様にくらかお役に立ったのではないかと考えております。

最上川の安全と安心が推進される河川事業の進捗を祈願すると共に、「水と緑と文化の町」大石田町と「雪とスイカと花笠のまち」尾花沢市の益々のご繁栄を祈念いたします。

河川に関するご意見をお寄せ下さい



国土交通省 新庄河川事務所 大石田出張所 担当 阿部・鈴木
〒999-4113 大石田町大字今宿字鷺の原466-2
TEL 0237-35-2024 FAX 0237-35-2354